

AV の “OF-Genitive” とヘブライ語法

橋 本 功

0. ヘブライ語の属格表現

Authorized Version (以下, AV) の旧約の原典の言語である旧約聖書ヘブライ語 (以下, ヘブライ語) は, 英語とは異なった構造の属格表現を持っている。すなわち, (1)に図式化して示されているように, 英語の “N₁ of N₂” に対応するヘブライ語の属格表現は, N₁ の母音を弱音化した後, N₁ と N₂ を並列するのである。

(1) N₁ (bound form) + N₂ (free form) = N₁-of N₂

その結果, 形態上は, N₁ は bound form と成り, 一方, N₂ は free form と成る。そして, 機能上は, N₁ は head であると同時に, 次に来る名詞 N₂ が N₁ の modifier であることを合図するのである。ヘブライ語のこの属格表現は, その機能の多様性及びその構造の特異性により, ヘブライ語の特徴的な統語法の一つに数えられている。

本稿の目的は, AV の “of-genitive” におけるこのヘブライ語属格表現の影響を明らかにすることである。

1. “s-Genitive” と “of-Genitive” の使用頻度

Altenberg (1982: 125) によれば, 17世紀の宗教散文における “of-genitive” に対する “s-genitive” の使用頻度は, 非宗教作品では79%であるのに対して, 宗教作品では24%である。Altenberg が調査対象とした宗教作品は, 新約の *Mark* と, *The Pilgrim's Progress* である。そして, Altenberg (*ibid.*: 259-62) は, 宗教作品では “of-genitive” の使用頻度が高い理由として, 英語の “N₁ of N₂” と同一語順であるヘブライ語やギリシャ語やラテン語の属格表現の影響以外に, “N₁ of N₂” は heavy stress が直接に隣接するのを防ぐことができると, “rolling, rhythmic movement” を作るのに役立つことを挙げている。

筆者は, AV の旧約に用いられている “of-genitive” の使用頻度とヘブライ語の属格表現との関連性の有無を考察するために AV の “To the Reader”, *Exodus* の各章冒頭の「梗概」そして *Exodus* の3種類の散文における “of-genitive” に対する “s-genitive” の出現率を調査した。これら3種類の AV の散文のうち, *Exodus* だけがヘブライ語からの翻訳文であるが, 他の2種類の散文はヘブライ語の影響を直接的には受けていない。尚, 調査対象とした “s-genitive” と “of-genitive” は, 上述の Altenberg の調査と同様, modifier である名詞が [+Human] または [+Deity] の素性を持っている場合だけである。下表はその調査結果である。

表 1

AV	's genitive	%	of genitive	Total
"To the Reader"	39	41.4	55	94
「梗概」	22	57.8	16	38
<i>Exodus</i>	83	16.9	407	490
Total	144	23.1	478	622

調査した資料全体としては、“s-genitive”の使用の割合(23.1%)は、Altenbergが調査した宗教散文における割合(24%)と近値である。しかし、3種類の散文を個別に見ると、ヘブライ語から訳出された*Exodus*においては、“s-genitive”の使用率が16.9%であり、他の2種類の散文に比べ、*Exodus*における“s-genitive”の占める割合が非常に低いことが明らかになる。*Exodus*における“s-genitive”と“of-genitive”の使用状況をさらに詳細に分析するために、これら両 genitives とヘブライ語の属格表現との対応関係を調査した。その結果、次の事実が明らかになった：

- 1) 83例の“s-genitive”のうち、ヘブライ語の属格表現に対応しているのは63例である。他の20例は、ヘブライ語の属格表現以外の表現を訳するために用いられている。
 - 2) 407例の“of-genitive”のうち、ヘブライ語の属格表現に対応しているのは404例である。他の3例は、ヘブライ語の属格表現以外の表現を訳するために用いられている。
- これらの事実を考慮に入れて、ヘブライ語属格表現が AV の *Exodus* で “s-genitive”, または, “of-genitive”として訳出される割合を見ると下表のようになる。すなわち、ヘブライ語属格表現は “s-genitive”よりも “of-genitive”によって置換されている割合が極めて高いことが分る。

表 2

's genitive	%	of genitive	%	Total
63	13.4	404	86.5	467

また、*Exodus*においては、ヘブライ語属格表現以外の表現を訳出する時に用いられる “s-genitive” と “of-genitive” の割合は、下表の通りである。すなわち、属格表現以外のヘブライ語表現を訳出する時に、英語の属格表現の使用が必要な場合、“of-genitive”よりも “s-genitive”の使用率が極めて高いことが分る。

表 3

's genitive	%	of genitive	%	Total
20	86.9	3	13.1	23

これらの調査から、ヘブライ語属格表現が AV (旧約) 全体において "of-genitive" の出現率を高める働をしているのであろうと推察することができる。恐らく、ヘブライ語属格表現 "N₁ N₂" (=N₁-of N₂) の語順が英語の "N₁ of N₂" の語順に対応しているために、原典の表現に忠実であろうとする AV の翻訳者達が、ヘブライ語属格表現の英訳として、"N₂'s N₁" よりも "N₁ of N₂" の表現を多く選択したのであろう。

2. Head noun の反復

ヘブライ語の属格表現 "N₁ N₂" の head である N₁ は、1 個の modifier を従えることを原則としている。そのために、同一 head を持つ modifier が複数個ある場合には、ヘブライ語では、modifier の数だけ head を反復することになる。(1)~(5)は、このようなヘブライ語の統語現象が反映されている文である。

- (1) they shall bring out *the bones* of the kings of Iudah, and *the bones* of his princes, and *the bones* of the Priests, and *the bones* of the Prophets, and *the bones* of the inhabitants of Jerusalem out of their graves. —Jer. viii. 1.
Cf. NEB: men shall bring out from their graves *the bones* of the kings of the Juda, of the officers, priests, and prophets, and of all who lived in Jerusalem.
- (2) And I will make thee swear by the LORD *the God* of heauen, and *the God* of the earth...—Gen. xxiii. 3.
- (3) Milcah, the daughter of Haran, *the father* of Milcah, and *the father* of Iscah. —Gen. xi. 29.
- (4) in the plaine of Mamre the Amorite, *brother* of Eshcol, and *brother* of Aner.—Gen. xiv. 13.
- (5) the LORD God of their fathers, *the God* of Abraham, *the God* of Isaac, and *the God* of Iacob hath appeared vnto thee. —Ex., iv. 5.

3. "The hill of my holiness" = my hill of holiness

ヘブライ語の属格表現 "N₁ N₂" (=N₁-of N₂) においては、N₁ にいかなる限定詞も付加することができない。ヘブライ語では、一般に、名詞を飾修する所有代名詞は、接尾辞の形態をとって、それが修飾する名詞に付加される。しかし、上述のように、ヘブライ語の属格表現では、N₁ に代名詞接尾辞を付加することができないので、たとえ N₁ を修飾するための代名詞接尾辞であっても、(1)に図式化して示されているように、N₂ に付加される。

<English> <Hebrew>
(1) a. *his* N₁ of N₂ → b. N₁ N₂-of-him

そのために (1b) は、(2a-c) に示されているように、三とおりの解釈が可能になる。

(2) a. N₁ of *his* N₂

- b. *his* N₁ of N₂
 c. *his* N₁ of *his* N₂

しかしながら、AVには(1b)を(2b)または(2c)のいずれかに解釈しなければならない場合においても、原典の(1b)の構造を保持している例を見ることができる。(3)-(12)はその例である。

- (3) the sword of *thy* excellencie (NEB: *your* glorious sword) — *Deut.* xxxiii. 29.
 (4) in the mountaine of *his* holinesse (NEB: *his* holy hill) — *Ps.* xlvi. 1.
 (5) in the Courts of *my* Holinesse (NEB: in *my* holy courts) — *Isa.* lxii. 9.
 (6) for a reward of *their* shame (NEB: *their* reward of shame) — *Ps.* xl. 15.
 (7) the rocke of *my* refuge (NEB: *my* rock of refuge) — *Ps.* xciv. 22.
 (8) the word of *thy* righteousnesse (NEB: *thy* righteous promise) — *Ps.* cxix. 123.
 (9) the voice of *my* supplications (NEB: *my* cry for mercy) — *Ps.* xxxi. 22.
 (10) the people of *thy* holinesse — *Isa.* lxiii. 18.
 (11) The shield of *thy* salvation — *Ps.* xviii. 35.
 (12) So we *thy* people and sheepe of *thy* pasture (=thy sheep of thy pasture) — *Ps.* lxxix. 13.

Cf. *my* exceeding ioy (Marginal note: *Hebr.* the gladnesse of *my* ioy) — *Ps.* xliii. 4.

his idoles of siluer, and *his* idoles of golde (Marginal note: *Hebr.* the idols of *his* siluer, &c.) — *Isa.* ii. 20.

上例の *Ps.* xliii. 4 や *Isa.* ii. 20 におけるように、(1b)がAVで(2b)の構造に変換して訳されている時に、marginal noteに原典の構造が記されている場合も、多くある。

尚、(13)に例示されているように、(2b)の解釈をすべきであるが、英訳聖書での訳が定着してしまっているために、NEBにおいても、(1b)の構造が保持されている例もある。

- (13) the God of *my* life (=my living God) (NEB: the God of *my* life) — *Ps.* xlii. 8.

4. “N₁ of N₂” (N₂=abstract noun)

AVには、“N₁ of N₂”構造のN₂が抽象名詞である場合が数多く見られる。この構造のAVにおける典型的な例は下例に示されているように「*men/a man of* + 抽象名詞」である。

men of renowine (*Gen.* vi. 4)/man of actiuitie (*Gen.* xvii. 6)/men of might (*2 Kings* xxiv. 16)/men of vnderstanding (*Job* xxxiv. 10)/men of strength (*Isa.* v. 22)/a man of rest (*1 Ch.* xxii. 9)/men of valour (*Judg.* iii. 29)/a man of sorrows (*Isa.* liii. 3)/a man of knowledge (*Pro.* xxiv. 5)/a man of great wrath (*Prov.* xix. 19)/a man of strife, and a man of contention (*Jer.* xv. 10)/a man of war (*1 Sam.* xvi. 17).

AV にこの種の表現が多く現れているのは、AV ではヘブライ語の表現が忠実に訳出されているためである。ヘブライ語は、形容詞が充分に発達していない言語である。そのために抽象名詞を属格表現の modifier として用いることによって、抽象名詞に形容詞的機能を与えているのである。もっとも、Kautzsch (1980: 417) によれば、ヘブライ語は、たとえ形容詞があっても、それを用いず、その名詞形（抽象名詞）を属格表現で用いることを好む言語である。

5. “(The) N₁ of N₂” (N₁=abstract noun)

AV には、“(the) N₁ of N₂” の N₁ が抽象名詞である時、N₁ が N₂ を修飾している例、すなわち、(1)-(20) に例示されているように「抽象名詞 + of」が形容詞として機能している例を多く見ることができる。

- (1) *the pride of man* (NEB: contentious men) —Ps. xxxi. 20.
- (2) I also haue giuen you *cleannesse of teeth* —Amos iv. 6.
- (3) according vnto *the greatnesse of thy mercie*, (NEB: thy great and constant love) —Num. xiv. 19.
- (4) and vpon *the smooth of his necke* (NEB: the smooth nape of his neck) —Gen. xxvii. 16.
- (5) *Length of dayes* is in her right hand (NEB: long life is...) —Prov. iii. 16.
- (6) with *gladnesse of heart* (NEB: with a glad heart) —Deut. xxviii. 47.
- (7) who hath *rednesse of eyes*? —Prov. xxiii. 29.
- (8) God gaue Solomon... *largenesse of heart*, —1 Kings iv. 29.
- (9) He that loueth *purenesse of heart* —Prov. xxii. 11.
- (10) the fathers shall not looke backe to their children for *feeblesse of handes* —Jer. xlvii. 3.
- (11) because of *the euill of your doings* (NEB: your evil doings) —Jer. xxi. 12.
- (12) *the fat of kidneis of wheat* (NEB: the finest flour) —Deut. xxxii. 14.
- (13) *the glory of his nostrils* is terrible. (NEB: his shrill neighing) —Job: xxxix. 20.
- (14) as *the vncleannesse of man*, or any vnclean beast, —Lev. vii. 21.
- (15) from *the flatterie of the tongue* (NEB: from the seductive tongue) —Prov. vi. 24.
- (16) by *strength of hand* the LOARD brought you out from this place: —Ex., xiii. 3.
- (17) hee shall kindle a burning, like *the burning of a fire* (= burning fire) —Isa. x. 16.
- (18) because of *the furie of the oppressour* (=the furious oppressor) —Isa. li. 13.
- (19) *a flame of fire* that deuoureth the stubble (=a flaming fire) —Joel ii. 5.

(20) *on the height of his stature (=his high stature)*.—1 Sam. xvi. 7.

これらも、原典のヘブライ語の属格表現が忠実に訳出された結果 AV に現れた表現である。一方、AV には、原典の構造よりも意味を重視した訳もある。そのような場合、多くは、(21) に例示されているように Marginal note にヘブライ語の構造が示されている。

(21)

AV	TRANSLATION	MARGINAL NOTE
1. <i>Ex. xi. 8</i>	a great anger	heat of anger
2. <i>Deut. xii. 11</i>	your choice vowes	the choice of your vowes
3. 2 <i>Ch. iv. 21</i>	perfect gold	perfections of gold
4. <i>Job xxx. 21</i>	thy strong hand	the strongth of thy hand.
5. <i>Ps. xxiv. 4</i>	cleane hands	the cleans of handes
6. <i>Ps. xxxiv. 8</i>	a broken heart	the broken of heart.
7. <i>Isa. xxxvii. 24</i>	the tall cedars	the tallnesse of the cedars
8. <i>Deut. xxviii. 50</i>	fierce countenance	strong of face
9. <i>Deut. xxxiii. 2</i>	a fierie Law	a fire of law
10. 1 <i>Kings vi. 29</i>	open flowers	openings of flower.

この事実は、当時このような表現に対して、容認可能性がある程度低かったことを示すものであろう。

これらに対応する原典のヘブライ語の構造であるが、当然、属格表現 “N₁ N₂” の N₁ が抽象名詞であり、そして、N₁ が N₂ の modifier になっていることは言うまでもない。この解釈は、§§ 4-5 において、ヘブライ語の属格表現 “N₁ N₂” の N₁ が head であり、N₂ が modifier であると述べたことと矛盾する。しかし、Davidson (1976: 33) によれば、N₁ が抽象名詞、あるいは、分詞である時、N₁ が N₂ を限定する機有を持つ場合がある。[ヘブライ語では分詞は、形容詞及び名詞の機能をも持っている。]そして、また、Kautzsch (1980: 428) によれば、この場合の抽象名詞及び分詞は、N₂ の位置に現れる場合に比べ強調が置かれているのである。

6. “A fool of a man” とヘブライ語法

この句では、§5 で言及した “N₁ of N₂” と同じく、N₁ が N₂ を修飾している。但しこの句の N₁ は具象名詞である。荒木・宇賀治 (1984: 527) は、「この句が存立し始めたのが17世紀後半からである」ことを示唆している。そして、尾上(1975: 96-97) は次のように指摘している。「これらの17世紀の語法が何を起源として起ったか、不明と言うほかはないが、この頃がまだ稀だったこの構文が18世紀初頭以来 Swift, Steele, Sterne, Sheridan 等アイルランド出身の文筆家たちによって持ちこまれた Anglo-Irish の語法の精力的な応援を受けて、19世紀に標準英語として次第に定着していったと見ることは先ず正しいのではないだろうか。」

これらの陳述のなかで興味深いのは、17世紀に起ったこの句の起源が「不明」であるという指摘である。なぜならばヘブライ語には、(1a), (2a), (4a), (5a) 示されているように、この句と同じ構造の句があり、それが17世紀前半の英訳聖書 AV を介して、英語に入ってきた可能性があるからである。

- (1) a. HB: and-he shall-be (a) *wild-ass-of* (a) man — Gen. xvi. 12.
 b. TB: a wylde man
 c. AV: a wilde man (marginal note にヘブライ語表現なし。)
 d. AP: like a wild Ass to Men (marginal note: the literal *Heb.* be, he will be the wild Ass of Men.)
 e. RV: as a wild-ass among men
 f. RSV: He shall be a wild ass of a man,
- (2) a. HB: and-we-shall-raise-up against-him seven-of shepherds and-eight-of princes-of men — Mic. v. 4 (5).
 b. AV: eight principall men (marginal note: *princes of men*)
 c. AP: we will raise up against him seven Shepherds, and eight Phinces of Men.
 d. RV: eight principal men
 e. RSV: eight principal men
- (3) a. HB: rebuke beasts-of reeds (the) company-of bulls with-calves-of peoples — Ps. lxxviii. 30.
 b. AV: Rebuke the company of spearmen, the multitude of the bulles, with the calves of the people,
 c. AP: Rebuke thou the Company at the Reeds, the Rabble of People like Bulls with Calves,
 d. RV: with the calves of the peoples,
- (4) a. HB: and-(a)-fool-of (a) man despises mother-of-him — Prov. xv. 20, xix. 13, xxi. 20.
 b. AV: the foolish man (marginal note にヘブライ語表現なし。)
- (5) a. HB: *lion-of-God* (=mighty hero) Moab — 2 Sam. xxiii. 20.
 b. AV: lion-like men of Moab (marginal note: *lion of God*) Cf. Isa. xxix. 11.
 (marginal note にある “lion of God” の God に対応するヘブライ語は “mighty man” をも意味する。)

これらのヘブライ語の表現は、§5におけるヘブライ語表現とは異なり、AV 訳では保存されていない。しかし、(2b)や(5b)におけるように、AV の marginal note でヘブライ語の表現が示されている場合がある。原典に忠実に訳出するように心掛けていた AV の翻訳者達が、翻訳文に原典の表現をもちこまず、marginal note でのみ原典の表現を示したということは、この表現は、当時の英語表現としては、容認可能性が極めて低かったことを示して

いると言えよう。

しかしながら、marginal note という形であったにせよ、その表現が英語を母語とする人々の目に入る機会があったことは否定できないであろう。その結果として、このヘブライ語表現が、§5における表現や(3a-b)における同格表現の類推から、容認可能性を高めていったとする推論も可能である。

尚、筆者の現在の調査では、このヘブライ語表現が最初に翻訳文の中にもちこまれた英訳聖書は、1764年の AP (Anthony Purver's *A New and Literal Translation of All the Books of the Old and New Testament*) (2c) である。

BIBLIOGRAPHY

TEXTS AND VERSIONS OF THE BIBLE

AV=Authorized Version *The Holy Bible: a facsimile in a reduced size of the Authorized Version published in the year 1611 with an introduction by A. W. Pollard and illustrative documents.* 1911. Oxford: OUP.

AP=Purver's Bible *A New and Literal Translation of All the Books of the Old and New Testament; with notes, critical and explanatory*, translated by Anthony Purver. 2 vols. 1764. London: W. Richardson and S. Clark.

HB=Hebrew Bible *Biblia Hebraica.* (ed.) R. Kittel, et al. 1977. Stuttgart: Deutsche Bibelstiftung.

NEB=New English Bible *The New English Bible: the Old Testament.* 1970. Oxford: OUP and Cambridge: CUP.

RV=Revised Version *The Holy Bible: the Revised Version.* Cambridge: CUP.

RSV=Revised Standard Version *The Revised Standard Version.* 1946. Norwood: Norwood Press.

TB=Tyndale's Bible *William Tyndale's Five Books of Moses Called the Pentateuch.* (ed.) J. I. Mombert. 1884. (newly intro.) F. F. Bruce. 1967. Sussex: Centaur.

REFERENCES

Altenberg, B. 1982. *The Genitive V. the of-Construction: a study of syntactic variation in 17th century English.* (Lund Studies in English 62) Lund: CWK Gleerup.

Araki, K. and M. Ukaji. (荒木一雄・宇賀治正明) 1984. *History of English III A. (Outline of English Linguistics 10).* Tokyo: Taishukan.

Davidson, A. B. 1894 (repr.) 1976. *Hebrew Syntax.* Edinburgh: T. & T. Clark.

Kautzsch, E. 1980. *Gesenius' Hebrew Grammar.* (translated into English by A. E. Cowley) Oxford: OUP.

Onoe, M. (尾上政治) 1975. "a fool of a man の構文について(1)——歴史的・地域的考察——"『中央大学九十周年記念論文集・文学部』93-114.

—— 1977. "18世紀英語の一面——"a fool of a man" 構文調査中間報告——"『中央大学文学部紀要』(文学科) 第40号, 1-25.